

あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

● 小松島みなとオアシス防災訓練

平成26年11月30日(日)に、第5回「みなとオアシス防災訓練」を小松島みなとオアシス（小松島みなと交流センターkocolo）にて行いました。

実施主体は、「小松島みなとまちづくり協議会」で、関係機関、地域住民、地元高校生など約50名の参加のもと、NPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま事務局長の開会挨拶、全体説明の後、以下の各種訓練を行い、小松島市産業振興課茨木課長の閉会挨拶をもって終了しました。（訓練内容の詳細は次ページ以降）

【各種訓練項目】

- 気球空撮システムを使用した情報収集訓練
- 被害想定等の情報提供
- 災害図上訓練

「小松島みなとまちづくり協議会」とは

徳島小松島港湾港地区を中心に、地域資源を活用した継続的な賑わいの創出活動や、人材発掘などの地域活性化策を推進するため平成22年10月に設立された組織です。



小松島市産業建設部産業振興課 茨木課長の挨拶

参加機関一覧(敬称略、順不同)

- 小松島みなとまちづくり協議会
NPO法人 港まちづくりファンタジーこまつしま
四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所
徳島県 県土整備部 運輸局 運輸政策課
小松島市 産業建設部 産業振興課
その他
- 徳島県 南海地震防災課
- 小松島市 総務部 市民安全課
- 小松島市 消防本部 消防課
- 小松島高等学校
- 北校区防犯交通地安推進会
- 元根井自主防災会
- 地域住民

INDEX

- 小松島みなとオアシス防災訓練 1
- 各種訓練の紹介①「気球空撮システムを使用した情報収集訓練」 2
- 各種訓練の紹介②「被害想定等の情報提供」 3
- 各種訓練の紹介③「災害図上訓練」 4

気球空撮システムを使用した情報収集訓練

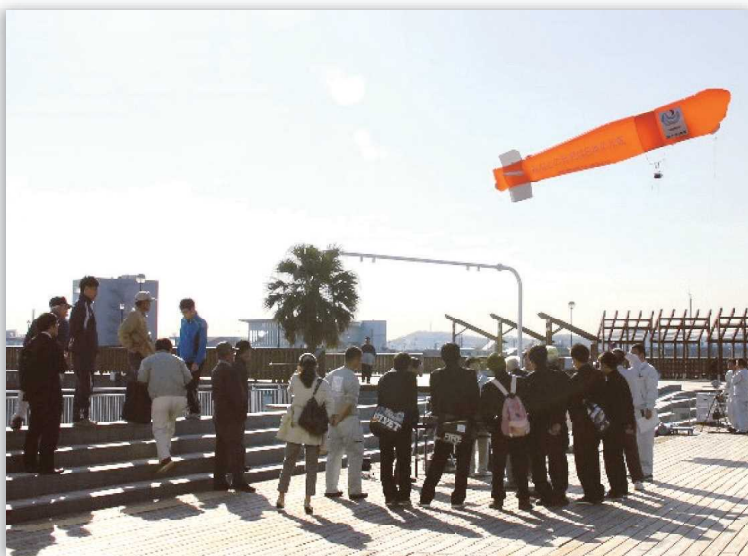
気球空撮システムは、小松島港湾・空港整備事務所が所有するシステムで、気球にカメラと映像送信機を取り付けて空に上げ、地上のコントローラと受信機で上空からの映像を確認することができる情報収集機器です。なお、本システムは、最大高度250mからの空撮を行うことができ、大規模な災害が発生し、道路や建物の被災等によって陸上からの被害状況の確認が難しい場合などでも、船舶等に搭載して海上から被害状況を確認することで、災害時の被災状況を早期に把握することが可能となります。

今回の情報収集訓練では、実際に気球空撮システムの気球を浮かべて、参加者がコントローラを操作することにより、上空からの映像や画像を撮影してもらいました。

災害対策用の機器は、いざというときにすぐ使えるよう普段から操作に習熟しておくことが重要です。今回は小松島港周辺の方々に本システムを知っていただくよい機会になったのではないかと思います。



気球空撮システムの操作説明状況



気球空撮システムの操作演習状況

気球空撮システム

カメラ及び映像送信機

気球(カメラ・映像送信機)

映像受信装置

カメラ用コントローラ

気球用係留索

● 各種訓練の紹介②

「被害想定等の情報提供」

今回の訓練に合わせて、南海トラフ巨大地震の概要や、平成24年10月に徳島県から公表された「津波浸水想定（最大クラスの津波(L2))」のほか、平成25年11月に公表された「津波災害警戒区域（イエローゾーン）、津波災害警戒区域図（基準水位）」等の最新情報について、徳島県南海地震防災課よりご説明いただきました。

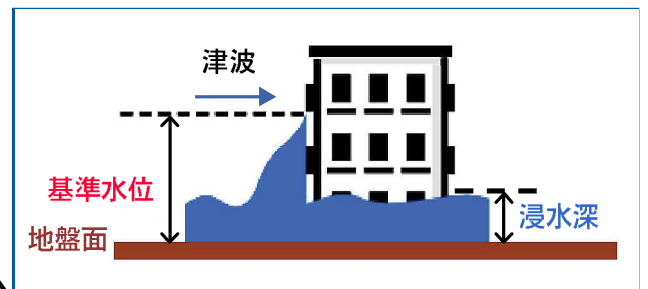
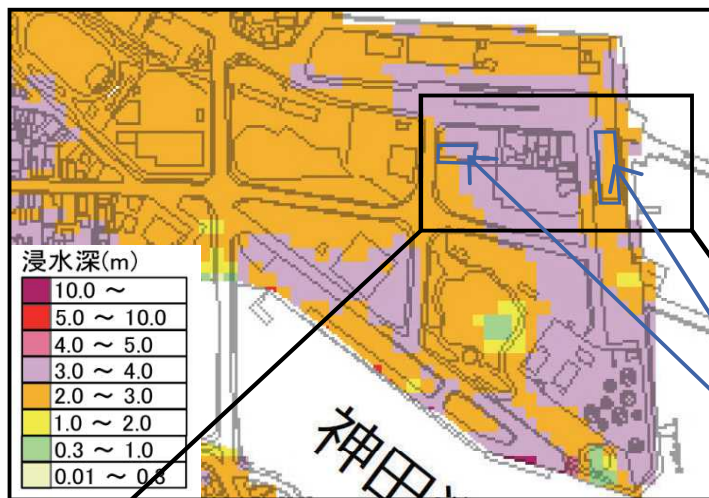
今回、新たに公表された基準水位により、津波浸水想定では現しにくかった建物周囲の津波高さを詳細に確認出来るようになったため、避難場所や自家発電設置など高さ設定の目安とすることで、津波対策を効率的に行うことが出来るようになります。

また、これと合わせて、災害対策として各家庭で今日からすぐ出来ることに「①自分の住んでいる地域の災害特性の確認、②安否確認への備え」がありますが、①の対策としては、今回情報提供のあった上記の被害想定等を徳島県のホームページで確認する方法、②の対策としては、徳島県で提供している安否確認サービス「すだちくんメール」についてもご説明いただきました。

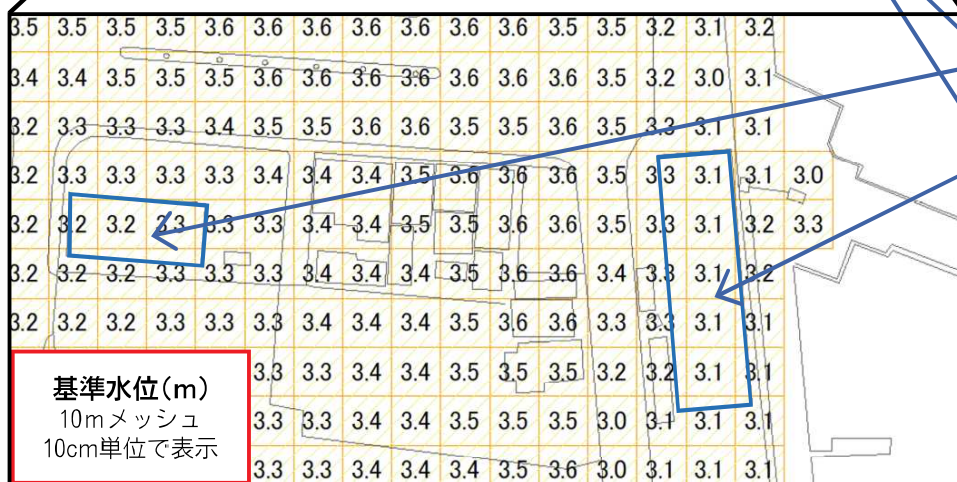
南海トラフを震源とする巨大地震について発生確率は高くなっておりませんが、一人一人が正しく情報を理解し地震に備えることで被害を最小限に抑えることができます。そのためには日頃から家族など周辺の人を含めて、この様な会話をすることも大事だと考えます。

● 小松島みなとオアシス周辺の津波浸水想定及び基準水位

津波浸水想定図(H24.10.31公表)



津波災害警戒区域図(H25.11.25公表)



小松島港湾・空港
整備事務所
小松島みなとオアシス

徳島県HPより

災害図上訓練

小松島市（市民安全課、消防課）の指導のもと、小松島高校と地元自主防災会の2班に分かれて災害図上訓練（DIG訓練）を実施しました。

訓練の内容としては、小松島市周辺の大きな地図を用い、南海トラフを震源とする大規模な地震・津波が発生する事態を想定し、地図上で避難場所を探し、安全が確保できる避難ルートを検討しました。

各班で議論する中、避難に際して橋の損壊や道路の液状化により避難が困難となる事、住宅密集地では倒壊や火災で通行が困難な事、高台に避難する場合に土砂崩れで避難が困難になる事など、様々な意見がかわされ、みなさんが真剣に取り組んでいました。

また、基本的には徒歩による避難を前提としていることから、①津波襲来時間までに避難が可能な施設がどこにあるか、②想定している避難場所までルートが寸断された場合、代替となる避難場所は他にあるかが検討する上で重要なことであると訓練を通じて理解してもらいました。



各班による訓練実施状況



小松島高校生徒による検討結果の発表



地元自主防災会による検討結果の発表

訓練成果と主要な意見

今回の訓練では例年同様、地元の自主防災組織や小松島高等学校に参加いただき、みなとオアシス周辺の地域の方々に密着した形で防災訓練を実施いたしました。なお、過去においては、「浮棧橋を利用した小型船による海上輸送訓練」や「緑地のオープンスペースでの炊き出し訓練」など、災害時のみなとオアシス周辺施設の有効性を検証しております。防災に関しては、防災に活用できる施設があるだけでは何の役にも立たず、その周辺にいる方々の活動が伴って、初めて効果が発揮できるものです。

今回、各行政組織並びに地元で活動する自主防災組織や高等学校など地域の住民に参加いただくことにより、周辺住民の防災意識向上、今後の防災活動に役立ったのではないのでしょうか。

災害時には、訓練以上の行動は、なかなか期待できません。地域の防災・減災には、出来ることから1つずつ行っていく地道な訓練の継続が重要です。

発行：小松島みなとまちづくり協議会

（平成26年度事務局：国土交通省 四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所 TEL：0885-32-3357）